

「一橋研究」総目次 第I号～第IX号 (1955年～1962年)

論 説

	筆 者 名	号	ページ
<b>〔商学関係〕</b>			
管理会計論の課題——経営計画との関連において——	市 村 昭 三	II	( 71～ 93)
商品取引所の価格保険機能	田 内 幸 一	II	( 94～109)
資産分類と期間所得の算定	久 野 光 朗	III	( 3～ 22)
経営学の対象に関する一考察	田 島 壮 幸	IV	( 4～ 15)
応用科学としての経営経済学 ——モクスターの所論に関する一考察——	田 島 壮 幸	VI	( 11～ 19)
<b>〔経済学関係〕</b>			
日本経済の発展と貿易	大 沢 悦 治	I	( 4～ 14)
所得分析における分配論的接近	塩野谷 祐 一	I	( 15～ 29)
価格理論をめぐる資本主義経済と社会主義経済の相違	山 田 良 治	I	( 30～ 41)
イギリス独占資本形成に関する一分析視角	清 水 嘉 治	I	( 42～ 51)
最小自乗法の基礎と計量経済学におけるその適用	宮 川 公 男	I	( 52～ 62)
商品経済の価値機構——価値形態論の一考察——	高須賀 義 博	II	(110～130)
Technology and Industrialization	Takashi Tsuru	II	(131～138)
資本蓄積論への道	花 輪 俊 哉	III	( 23～ 36)
定常確率過程の経済分析への応用	溝 口 敏 行	III	( 37～ 50)
貸付資金説と流動性選好説	志 田 明	IV	( 30～ 41)
マルクス貨幣論の研究	加 藤 寛 孝	V	( 33～ 48)
適度人口	南 亮 進	V	( 49～ 62)
逐次モデル	神 田 祐 一	VI	( 20～ 26)
不完全競争と経済変動過程	松 田 芳 郎	VI	( 49～ 57)
消費支出における職業効果の分析	神 田 祐 一	VII	( 1～ 6)
農家の消費行動の計量経済学的分析	山 沢 逸 平	VIII	( 7～ 14)
唐代における均田法・租庸調法の反復公布と括戸政策	中 川 学	IX	( 1～ 12)
<b>〔法学関係〕</b>			
英米割合運送賃論	魚 谷 増 男	I	( 63～ 72)
アメリカ法における取締役の常任委員会について	藤 田 洲 雄	II	( 26～ 35)
ストライキと労働契約——独逸新派の理論——	喜 多 実	II	( 36～ 47)
米国海上運送業者の運送品の滅失毀損に対する責任	魚 谷 増 男	II	( 48～ 70)
外国人夫婦に対するわが国の離婚裁判権	海老沢 美 広	III	( 51～ 63)

A. コックス「労働協約上の権利」……………	坂本重雄	III ( 64~ 77)
米国抵触法上の二・三の問題点……………	畑場準一	III ( 78~100)
「資本主義の法律的基础」について……………	青木英夫	V ( 5~ 18)
所有権とその社会的作用……………	松島由紀子	VI ( 27~ 36)
会社支配と取締役……………	青木英夫	VII ( 7~ 12)
コンツェルン指揮と取締役……………	青木英夫	VIII ( 1~ 6)

〔社会学関係〕

レックス・サリカ研究の発展……………	石川操	II ( 3~ 25)
Significance of Chicago as the Material of American Literature…	Akira Yajima	III (101~109)
イギリス経済史研究の一潮流—R. H. トーニーの評価を中心として…	森本義輝	III (110~111)
徳島県の僻地教育……………	高橋義寛	VI ( 42~ 47)
「利潤率の傾向的低落の法則」について……………	篠原三郎	VI ( 48~ 54)
若きロックの思想形成について……………	中村恒矩	VI ( 55~ 76)
ディルタイの認識論……………	安田良雄	VI ( 77~ 80)
モーゼス・ヘスの社会主義……………	畑孝一	V ( 19~ 32)
「自然に帰れ」とは——ルソーの学説——……………	中島厳	V ( 63~ 73)
日本のナショナリズムとデモクラシー——大井憲太郎の位置——…	石原保徳	VI ( 37~ 56)
資本蓄積と資本主義の腐朽化について……………	宇藤義隆	VII ( 13~ 18)
1844年におけるマルクスの価値論……………	藤森俊輔	VII ( 19~ 24)
「イーゴリ遠征物語」における人間像……………	中村喜和	VII ( 25~ 30)
ロシア芸術音楽における民族性の構造……………	大塚明	VIII ( 15~ 20)
Turgot の歴史意識の構造と論理……………	渡辺恭彦	IX ( 13~ 24)
モンテーニュにおける理性の二重性とその現実認識の構造 ——宗教改革と宗教戦争とをかれはいかにうけとめたか——…	高橋誠	IX ( 25~ 34)

研 究 ノ 一 ト

〔商学関係〕

単独決定原理と共同決定原理について ——グーテンベルクの所論を中心として——……………	平田光弘	VI ( 58~ 62)
リトルトン学説の一考察——メイの論争を中心にして——……………	藤本美佐子	VIII ( 39~ 44)
工業生産の結合法則について……………	平田光弘	IX ( 35~ 38)

〔経済学関係〕

マルクス経済学におけるプランの一問題点……………	熊谷一男	I ( 78~ 80)
クラインの所得の定義について……………	加藤寛孝	I ( 87~ 89)
カレッキの独占度について……………	長谷田彰彦	I ( 90~ 93)
個人所得分布構造の変動		

——昭和29～33年の高額所得の遷移を中心にして——	松田芳郎	VII (31～36)
耐久消費需要の分析	島久代	IX (39～44)
〔法学関係〕		
拒否権と国際連合における新動向	小長谷和高	I (74～77)
ローマ法継受研究ノート	勝田有恒	V (74～83)
スペイン商法のいわゆる客観主義について	中川和彦	V (84～87)
起訴陪審について——主として米国の制度——	居林次雄	VI (63～68)
韓国の離婚実態	金震燮	VIII (21～26)
コニオン・デモクラシーと組合自治		
——イギリス組合自治制限の法理を中心にして——	竹内規治	VIII (27～32)
〔社会学関係〕		
ウェーバーの社会主義論	林武	I (81～86)
17世紀モンゴル史書「ジャラ・トージ」とその周辺	田中克彦	VI (69～74)
カザフスタンの文化活動家——チョカン・クリハーノフのこと——	田中克彦	VII (37～42)
社会的所有としての商品と価値の実体規定について	中野雄策	VII (43～48)
ニュー・ディール期におけるアメリカ労働運動		
——CIO成立史——	長沼秀也	VIII (33～38)

## 書 評

H. A. メシチェルフスキ「古代ロシア語訳における ヨセフス・スラウィウスのユダヤ戦史」	中村喜和	VI (75～83)
ヘルマン・ハインベル「小さな提琴, 首府ミュンヘンの一少年」	阿部謹也	VII (55～60)
オーギュスト・コルニュのヘス研究	畑考一	VIII (45～52)
J. クロブシ「政治と経済——アダム・スミスの原理の一解釈」	星野彰男	IX (51～56)

## 資料・講演ほか

学問と現実について	上原専祿	VI (1～10)
一橋大学大学院生の経済生活	学生会理事会	VI (84～90)
1953年スペイン有限会社法	中川和彦	VII (49～54)
シンポジウム——学問と現実——	学生会理事会	VIII (53～61)
ベネズエラ有限責任会社法	中川和彦	IX (45～50)